



2000km を旅する蝶・春と秋に立田山に飛来！

アサギマダラはフジバカマの花が大好きです

アサギマダラの謎と人気の秘密

大きさはアゲハチョウと同じくらい。漢字で「浅葱斑」と書きます。「浅葱」とは青緑色の古称で、黒または褐色の翅の中に半透明水色の斑点が並んでいます。他の蝶のように細かく羽ばたかずにフワフワと優雅に飛び回り、人をあまり恐れず近くで観察できるため「人気者の蝶」です。

ところがこのアサギマダラ、実は他の蝶に比べて生態の解明されていない部分が多い「謎に包まれた蝶」なのです。

アサギマダラは海を渡り、国境を越えて何千 km も「旅する蝶」として有名で、春から夏にかけて南の国から北へ移動し、秋になると南下します。2011 年秋、和歌山から 83 日かけて約 2,500 km 離れた香港まで旅をしたという報告もあります。渡り鳥のように季節によって長距離を移動する習性を持ち、しかも集団でそれを行う蝶。何がこの「渡り現象」を誘引しているのか、昆虫学者にもよく分からないそうです。



立田山を訪れたアサギマダラに感激



▲2019. 10. 20／龍田西おもてなし農園で

そして立田山は、アサギマダラが旅の途中に休息する場所です。夏から秋にかけてはフジバカマ(秋の七草のひとつ)などのキク科植物の花に集まり、吸蜜する姿が見られます。昨年 10 月 20 日、立田山自然探検隊の観察会で、「龍田西校区おもてなし農園」のフジバカマにやって来たアサギマダラと対面。観察会参加の子ども達は大喜び。「色がきれい」「飛び方がフワフワと優雅」「元気に旅を続けて」と子ども達は蝶に話しかけていました。

立田山にフジバカマを植えてアサギマダラを呼ぼう

5/4 熊日新聞に「アサギマダラ 上天草・維和島に飛来」の記事を見つけました。この春、北上する旅の途中に立ち寄ったようです。

立田山自然探検隊では、会員の皆さんと一緒に、龍田西校区の皆さんの農園づくりに協賛して「探検隊例会(観察会)」を計画するとともに、立田山野外保育センター「雑草の森」にフジバカマを植えてアサギマダラ(秋)を呼ぼうと計画中です。

